

『きよし このよる』



中村 妙子 文
チュレスティーノ・ピアッティ 絵
日本基督教団出版局 1979年

ぽい ものじゃなく、そのもの。

クリスマスが近づいています。
今年は11月29日(日)がアドベント第1主日です。
教会では最初のロウソクを灯します。

クリスマスの絵本を紹介しましょう。

「クリスマスを待つ心」を伝えてくれる本を、とあって去年はぼんやりと温かい『くつやのマルチン』を紹介しました。どこからか神さまのお声が聞こえてくるような、神さまのやさしさが感じられる作品でした。

幼稚園の絵本の部屋にはクリスマスの棚があります。クリスマスにちなんだ新旧たくさんの絵本が並んでいます。

古くて疲れた本が多いのは、園児のみんなが毎年毎年開いてくれたからですね。かわいい動物たちが登場するものも、外国の作家によるものもズラッと勢揃いしています。サンタクロースが活躍するお話、プレゼントをもらって喜ぶお話、神さまもイエスさまも出てこないお話も・・・。

そんな中から今年は『きよし このよる』をおすすめします。こちらは聖書の「ルカによる福音書」が伝えるクリスマスの出来事に、少しだけ書き手の説明が加えられている、そのものズバリのクリスマス物語です。

サンタクロースからのプレゼントじゃない、神さまからの贈り物のお話し。
クリスマスにちなんだものではなくて、たった一つの実を伝えるお話し。
キラキラしてないけれど、これこそが覚えておくべきクリスマスのお話し。

絵本には「幼い心にわかりやすく伝える」力があります。伝えられる事柄が難しいことであっても、印象深い絵と言葉を通して「そのもの」が伝えられると思います。きつとなにげなく開いたこの絵本から何々ぽいものではなく、ごまかしのないそのもの・強いメッセージが伝えられるでしょう。

どうぞよいクリスマスを教会でお迎え下さい。

2020年11月27日 梅崎啓子